



令和 2 年産（令和元年播種）



麦類の生育概況 vol.4

埼玉県マスコット
「コバトン」

（令和 2 年 3 月 2 日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要 約

◎気象概況：2月の気温は観測史上1位。降水量は少なかった。

◎生育状況：生育進度は非常に早い。

◎今後取るべき技術対策

※ 生育が非常に早まっているため、作業が遅れないように！

- ・ 追 肥：麦種、品種と生育に合わせた追肥を実施する。「さとのそら」は必ず実施する。
- ・ 排水対策：排水機能を保つよう明渠と排水溝の点検補修を行う。
- ・ 雑草防除：雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さないよう防除を行う。
- ・ 病害虫防除：麦の生育に合わせた赤かび病防除計画をたて、適期に防除を行う。

1 気象の概況

2月の平均気温は第2半旬を除いて平年より高く、月平均では2.4℃高かった。降水量は第4半旬にまとまった降雨があり、月合計では平年比36%であった。日照時間は第1, 2, 5半旬で平年より多く、月合計では平年比107%であった。

2 生育の概況

（1）センター内生育相（11月8日播種）

ア 小麦（さとのそら）

土壤水分が高く、平年よりも高温で推移しているため、葉位の進展が早く、平年よりも最高分けつ期が早まった。3月2日調査時点で、草丈は平年よりもかなり大きく、莖数は弱小莖の消失が早まっていることから、平年よりわずかに少なくなっている。

「さとのそら」の秋播性はIVであるが、記録的な高温により幼穂分化が促進され、莖立期は2月29日（平年3月13日）と平年よりかなり早くなった。出穂期も3月30日頃（平年4月12日）とかなり早まる見込みである。

イ 大麦（彩の星）

土壤水分が高く、平年よりも高温で推移しているため、葉位の進展が早く、既に止葉が展開している。草丈は平年よりもかなり大きく、莖数は弱小莖の消失が早まっていることから、平年よりもかなり少なくなっている。

「彩の星」の秋播性はI~IIであるため、高温により幼穂の発達がかなり早まり、3月2日現在で幼穂長は平年比631%と著しく大きくなっている。

莖立期は2月9日（平年3月2日）と平年より22日早かった。出穂期も3

月 10 日頃（平年 3 月 31 日）とかなり早まる予想である。

（2）県内全般

高温により生育は非常に進んでいる。11 月上中旬播きの「さとのそら」は茎立期、「彩の星」は穂ばらみ期を迎えている。生育量は大きく、葉色はやや淡いほ場が多い。ビール麦は穂数が少ない傾向。11 月下旬の降雨をはさんだ前後の播種時期の違いにより、麦類の生育は大きなばらつきがある。顕著な病害虫被害などはみられないが、ほ場によっては雑草が目立ちつつある。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が 3 月 5 日に発表した 1 か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。平均気温は高い確率 80% である。

3 月 2 日の高温に関する早期天候情報(関東甲信地方)では 3 月 8 日頃からかなりの高温(5 日間平均気温平年差+2.8℃以上)と予想されている。

また、2 月 25 日発表の 3 か月予報では、4 月、5 月ともに天気は数日の周期で変わる見込みである。気温は、4 月は平年並みまたは高い確率ともに 40% である。

（2）生育予測

今後もかなり気温が高いことが予想されることから、小麦、大麦とも生育が非常に促進され、茎立期、出穂期とも過去例がないほど早まる可能性が高い。寒の戻りなどによる凍霜害が懸念される。

4 今後取るべき技術対策

（1）追肥

「さとのそら」は、出穂 2 週間前に窒素成分 3~4kg/10a を目安に施用する。機械散布で茎立ち後の散布が困難な場合は、茎立直前に同 3~4kg/10a を散布する。

生育が非常に早まっているため、観察して時機を逸さないよう追肥する。11 月上中旬播きはすでに茎立期を迎えているため、ほ場に入らないか、できるだけ麦にダメージを与えないよう追肥する。高温と十分な土壤水分により、生育は進んでおり葉色が淡いほ場もみられることから、積極的に追肥を行う。

（2）排水作業

茎立期以降のまとまった降雨は、根の機能を低下させ湿害を助長する。麦踏み等で明きょが埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

（3）雑草防除

茎立期を過ぎると使用できる除草剤に限られるため、早めに雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さないよう防除を行う。

特に、カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に混入する恐れのある雑草は確実な除草を行う。

(4) 病虫害防除

赤かび病の防除は必ず実施する。防除適期は下表を目安にする。

11 月上中旬播きでは、本年の出穂時期は過去にないほど早まる可能性が高い。今後の気象推移に留意して早めに防除計画を立てる。

特に、ビール麦の登熟は、近年急激な高温による登熟期間の短縮が懸念される。薬剤によっては収穫前日数の長い薬剤があるので、十分に注意する。

なお、平年の出穂時期は、11 月播きの小麦が 4 月中旬、大麦は 3 月末～4 月上旬であり、12 月播きはこれより数日～10 日程度遅くなる。

※赤かび病防除の目安

| | |
|----------------|---|
| 小麦 | <ul style="list-style-type: none">出穂から7～10日後を目安に開花初めを確認し、直ちに薬剤を散布。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。 |
| ビール麦 (二条大麦) | <ul style="list-style-type: none">穂揃期の10日後に薬剤散布。 |
| 六条大麦 | <ul style="list-style-type: none">穂揃期に薬剤を必ず散布。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。 |

解析・考察に用いた具体的数字

1 2月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

| 半旬 | 平均気温(°C) | | 最高気温(°C) | | 最低気温(°C) | | 降水量(mm) | | 日照時間(hr) | |
|----|----------|-----|----------|------|----------|------|---------|------|----------|-------|
| | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 |
| 1 | 6.8 | 4.0 | 13.5 | 9.5 | 1.2 | -0.7 | 0.0 | 5.1 | 44.3 | 36.0 |
| 2 | 2.5 | 4.4 | 8.3 | 9.9 | -2.3 | -0.4 | 0.0 | 4.5 | 49.4 | 35.3 |
| 3 | 9.4 | 4.7 | 15.6 | 10.3 | 3.1 | -0.1 | 0.0 | 6.0 | 32.9 | 34.1 |
| 4 | 7.8 | 4.9 | 11.9 | 10.4 | 3.4 | 0.2 | 10.0 | 8.1 | 25.4 | 33.2 |
| 5 | 9.2 | 5.3 | 15.3 | 10.6 | 3.7 | 0.6 | 3.0 | 8.5 | 38.3 | 32.4 |
| 6 | 7.1 | 5.8 | 11.7 | 11.1 | 2.8 | 1.1 | 1.0 | 6.8 | 25.6 | 25.6 |
| 平均 | 7.1 | 4.8 | 12.7 | 10.2 | 2.0 | 0.0 | 合計 14.0 | 39.0 | 210.2 | 196.6 |

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値

2 生育状況

| 品種名 | 調査日 | 草丈 | | 茎数 | | 葉位 | | 風乾重 | | 風乾歩合 | |
|-------|-------|------------|------------|-------------|------------|-----------|-----|----------------|------------|-----------|------|
| | | 本年 (cm) | 平年比 (%) | 本年 (本/株) | 平年比 (%) | 本年 (L) | 平年差 | 本年 (g/100本) | 平年比 (%) | 本年 (%) | 平年差 |
| さとのそら | 2月10日 | 16.4 | 124 | 9.9 | 120 | 7.9 | 1.5 | 77.8 | 173 | 20.9 | -1.7 |
| | 2月20日 | 22.4 | 151 | 10.4 | 106 | 8.9 | 1.7 | 140.5 | 237 | 20.7 | 1.3 |
| | 3月2日 | 28.0 | 158 | 10.2 | 96 | 10.2 | 2.2 | 179.5 | 213 | 18.3 | -0.8 |
| 彩の星 | 2月10日 | 26.9 | 150 | 10.7 | 89 | 7.8 | 1.1 | 171.9 | 194 | 17.7 | 2.1 |
| | 2月20日 | 34.6 | 168 | 9.9 | 76 | 8.8 | 1.5 | 273.0 | 228 | 19.1 | 3.7 |
| | 3月2日 | 50.7 | 202 | 9.2 | 65 | 10.3 | 2.3 | 350.4 | 198 | 17.2 | 1.5 |

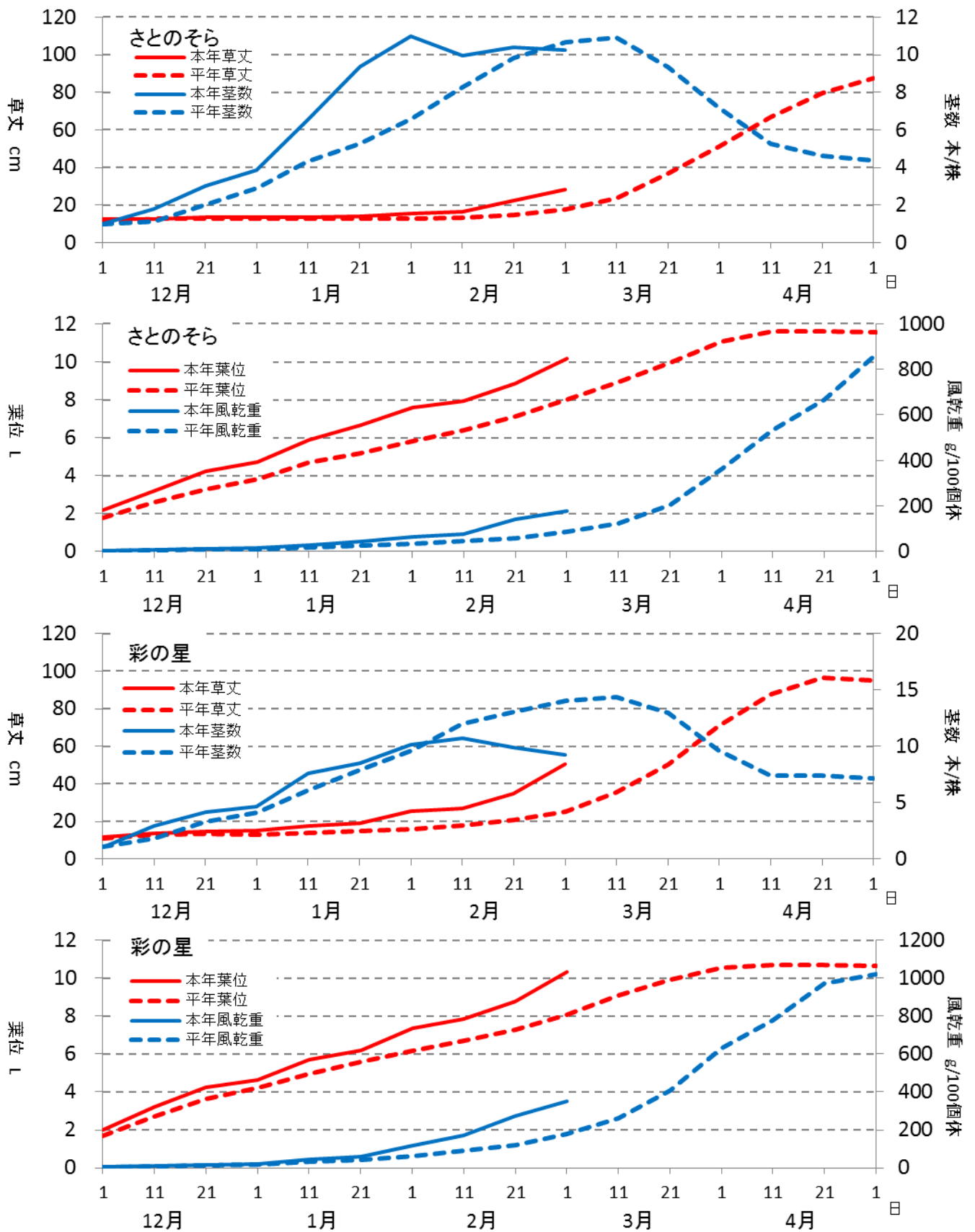
注1.さとのそら平年値は、過去6年間の平均値。彩の星平年値は過去8年間の平均値。以下同様。

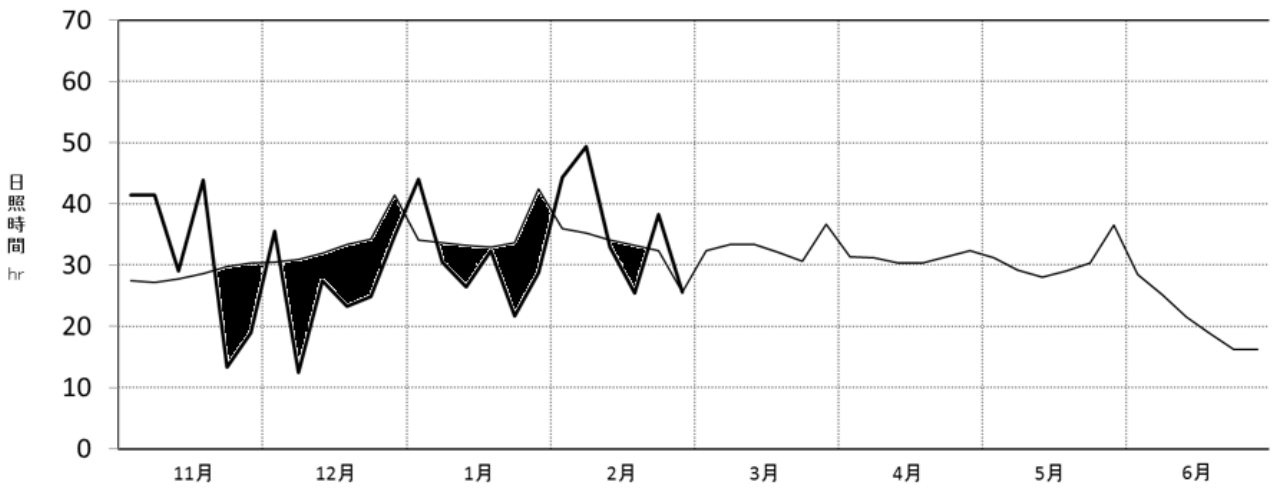
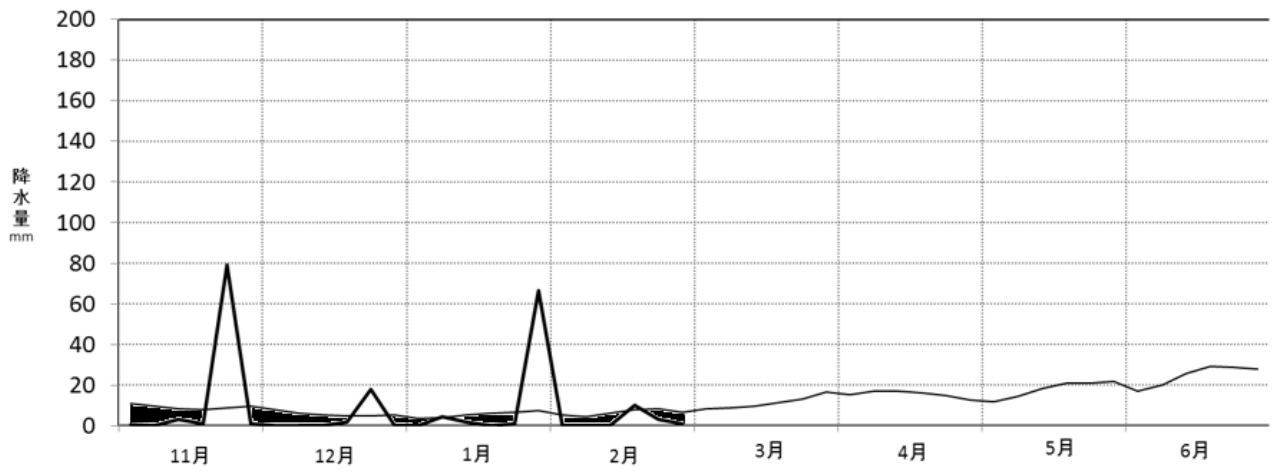
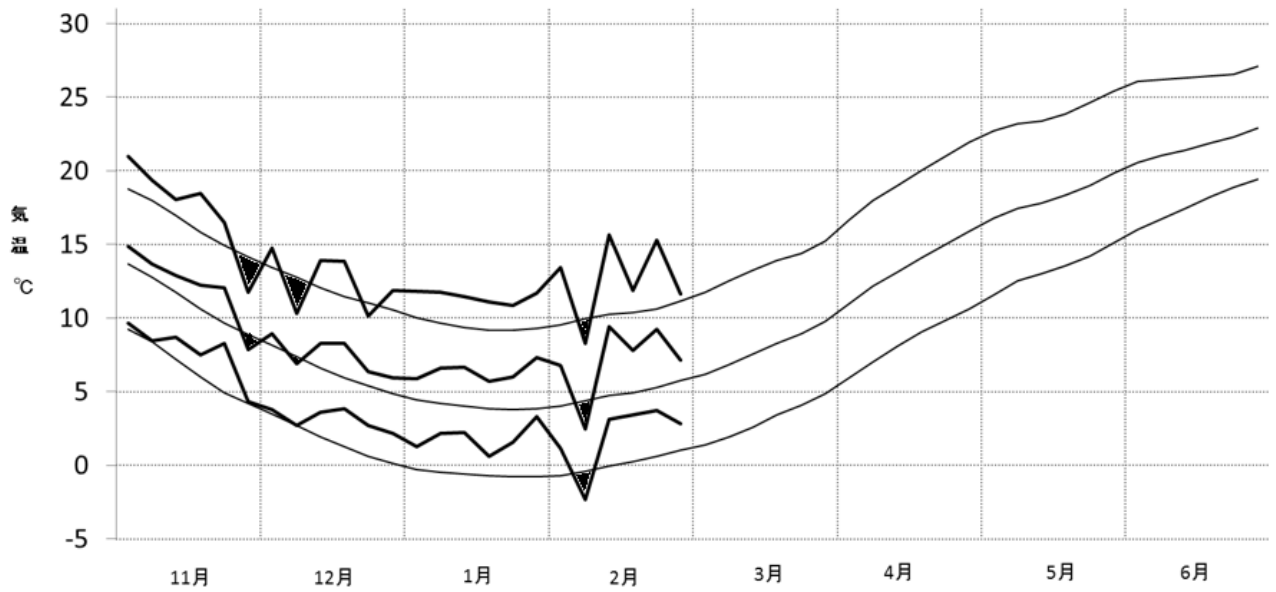
注2.風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

3 幼穂分化

| 品種 | 月日 | 稈長 | | | 幼穂長 | | | 幼穂分化ステージ | |
|-------|-------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|
| | | 本年 (mm) | 平年 (mm) | 平年比 (%) | 本年 (mm) | 平年 (mm) | 平年比 (%) | 本年 | 平年 |
| さとのそら | 2月10日 | 3.5 | 2.5 | 142 | 1.0 | 0.5 | 206 | VII後~VIII | VI~VII前 |
| | 2月20日 | 8.9 | 3.6 | 250 | 2.1 | 0.9 | 238 | IX中~IX後 | VII前~VII後 |
| | 3月2日 | 34.9 | 5.6 | 623 | 4.7 | 1.5 | 315 | X | VII~IX前 |
| 彩の星 | 2月10日 | 25.3 | 5.2 | 491 | 7.7 | 2.8 | 280 | X | VIII~IX前 |
| | 2月20日 | 91.5 | 11.5 | 795 | 18.3 | 4.1 | 446 | X | IX中 |
| | 3月2日 | 285.2 | 29.6 | 963 | 49.1 | 7.8 | 631 | X | IX後~X |

4 生育経過





令和元年冬作期間気象図
(熊谷地方気象台測定値)